



大月市議会議員



自宅 大月市猿橋町小篠 8 5 3
電話/FAX 0 5 5 4 - 5 6 - 7 2 7 2

まちづくり学習会で見えてきた

「大月市は財政が厳しいので、民間資金を取り込む官民連携でしか乗りきれないのでは？」との声を聞きながら、講師のお話に耳を傾けました。

「官民連携は 2000 年ごろから各地に広がったが、様々な失敗を引き起こし、『PFI 神話の崩壊』(2009 年)を書いた後はピタリと止まった。PFI の母国イギリスは見直しが進んでいるのに、日本では逆に増加させるために度重なる法改正をしている。コンサル会社への調査委託費 100%負担もしくかり、大月駅北側の調査報告書も国の支援基準に沿ったものになっている」

「官民連携での成功事例はある。補助金利用の発想をやめ、まちにあるものを最大限生かす自治体の政策にそった事例。岩手県紫波町のオガールプロジェクトには視察も殺到している」

「逆に地域の実情を無視した補助金狙いの失敗事例は反面教師にしてほしい。南アルプス市の完熟農園は建物完成後半年で経営破たんした」

大月市でも官民連携に限らず補助金利用の発想をやめれば、北側事業費は 15 億円→51 億円に拡大せずすみます。本当に大月を愛する人達が本気になって参加し考えられる機会を増やすことが必要です。

官民連携 (PFI) 施設の特徴

(講師が見て歩いた共通点とは)

- ①外壁が少なくガラス張り⇒もろい
- ②吹き抜けがある⇒スペース減
- ③じゅうたん敷き⇒豪華にみえる

官民連携 (PFI) の問題点

(『PFI 神話の崩壊』より)

- ～打ち出の小づちではない
- ①財政難のもとでも施設建設推進
⇒豪華になる
- ②自治体の関与と住民の立場の後退
⇒仕様発注から性能発注へ
出来上がりは民間におまかせ
- ③自治体と大企業の癒着のおそれ
⇒長期間契約の莫大な利益
- ④事故等の損失の負担
⇒仮に手抜き工事があっても…

大月駅複合施設建設費 (50 万円/㎡)

官民連携 35 億円

市はリース料 3 億円/年×20 年間

一般的市庁舎建設費 (45 万円/㎡)

従来なら 20~23 億円

【藤本みのる活動日誌】

- 11月27日(水) 実りの時間(笑いの家とのうえ)
- 11月28日(木) まちづくり学習会(大商協ホール)
- 11月29日(金) 12月市議会定例会開会(19日まで)
大月駅前広場イルミネーション点灯式